

タイ館に鬼が現れ、来客を歓迎！

タイから来た2体の鬼が愛・地球博のタイ館に到着しました。今、タイ館の前に立ち皆様を歓迎している2体の鬼が通行人とタイ館に訪問されたお客様に大人気です。毎日多くの人達がタイ館に来て、鬼と一緒に写真を撮ります。

タイではお寺の門によく見られる鬼の像が今タイ館の前に番人として置かれました。鬼はタイ語で「ヤック」と呼ばれています。仏教やヒンドゥー教の信仰とタイの文学により、「ヤック」というのは人間でも天使でもなく、人間より力を持ち、宗教的な世界に住んでいるものだと考えられています。



道徳的な鬼と悪気のある鬼に分けられます。お寺の門の前で剣を持ち、仁王立ちする鬼の像は番人として置かれ、悪魔からお寺を守ったり、仏教を存続させることができると信じられています。それゆえ、タイ館でも来館者の身の安全や幸福への願いを込めてこうした鬼の像を置くことにしたのです。



2体の鬼の像はタイの『ラーマキェン物語』に登場し、『トッサキリートン』と『ウィルンジャムバン』という名を付けられています。『ラーマキェン物語』はインドの『ラーマヤーナ物語』に影響を受けた後、タイの文化に合わせ新しく作られたもので、ラーマ王子の猿の軍隊とトッサカンという鬼の軍隊との戦争についての物語です。



タイの「エメラルド仏寺院」、「ワット・ポー」、「暁の寺」といった名所でもこのような鬼の像がよく見られます。故に、鬼はゾウと並びタイを代表するものの一つであるといえるかもしれません。

あなたも鬼達に会いに来ませんか。皆様のご来館をお待ちしております。